

宮城・岩手・福島県地域型復興住宅推進協議会 復興住宅（木造）建設への取り組み

資料-7

構成団体

建築士事務所協会・建築士会・建築家協会・建設業協会・建設専門工事業団体連
合会・建設職組合連合会・工務店団体・森林組合連合会・木材協同組合

コンセプト

地域の気候・風土・歴史・文化にふさわしい良質で取得しやすい
木造住宅の建設。（災害公営木造住宅にも反映）

- ①工期短縮
- ②ローコスト化
- ③地域材活用

有効な工法
まかべ工法・蔵工法・
ロケット工法 及び
PC基礎等

地域木材活用
の屋根・壁面
間仕切りの
パネル化

連続施工と
構造体・外
壁・内部造
作の分業化

需要に応える木材供給の体制づくり

各県に「木材供給連絡会議」を設置 = 月例検討会で対応を協議
[原木生産・木材生産・木材加工の各団体及び県林業部局が参加]

3県実務者会議
シンポジウム

国交省・林野庁・3県住宅・林業部局出席

まかべ工法＝構造体の柱と柱の間を筋交いを使わず、耐震強度のあるパネルを組み込む工法

ロケット工法＝柱と梁の接合を特殊な金具で接合する工法で、構造体（柱）の建て方（施工）が早いのが特徴

蔵工法＝蔵作りの技法で構造体（柱間）の柱を45センチ間隔に配置し、筋交いを使わず、また高い断熱性能を確保するパネルを採用。耐震性と省エネルギー性能の高い工法。

パネル化＝屋根・外壁・内壁・間仕切りのパネル化の採用と大工造作との分業